

Oracle® Database

Client リリース・ノート

10g リリース 1 (10.1.0.2.0) for Microsoft Windows

部品番号 : B13743-01

原典情報 : B12179-01 Oracle Database Client Release Notes, 10g Release 1 (10.1.0.2.0) for Windows

2004 年 4 月

このリリース・ノートには、Oracle Database ドキュメント・ライブラリには含まれていない、最新の重要な情報を記載します。すでにデータベースにはインストールされていないコンポーネントに関する情報が記載されている場合もあります。

このリリース・ノートの内容は、次のとおりです。

- [ドキュメント](#)
- [README ファイルの場所](#)
- [Microsoft Active Directory のサポート](#)
- [新機能](#)
- [別にインストールする必要があるコンポーネント](#)
- [サポートされていないコンポーネント](#)
- [公開されている不具合および既知の問題](#)
- [ドキュメントの訂正および追加](#)

1 ドキュメント

Oracle Database 10g リリース 1 (10.1.0.2.0) のドキュメントは、次のサイトから入手できます。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

2 README ファイルの場所

追加コンポーネントの README ファイルは、インストール後に参照できます。それぞれ次の場所にあります。

- `%ORACLE_HOME%\doc`
- `%ORACLE_HOME%\relnotes`
- ORACLE_HOME ディレクトリの製品サブディレクトリ

ORACLE®

Copyright © 2004, Oracle. All rights reserved.

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle® Database は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

3 Microsoft Active Directory のサポート

Microsoft Active Directory は、Oracle Database 10g リリース 1 (10.1) でサポートされません。

関連資料: <http://otn.oracle.com/products/> にある『Oracle Database Using Oracle Database with Microsoft Active Directory for Windows』マニュアルの「Using Oracle Database with Microsoft Active Directory」を参照してください。

4 新機能

この項では、他には記載されていない Oracle Database for Windows の新機能について説明します。

4.1 Windows で使用可能な新しい Oracle C++ Call Interface ライブラリ

新しい Oracle C++ Call Interface (OCCI) ライブラリは、Microsoft CRT デバッグ用、および Microsoft Visual C++ 7.0 .NET 2002 および Microsoft Visual C++ 7.1 .NET 2003 でのアプリケーション開発用に使用できます。

4.1.1 Microsoft Visual C++ 6.0 のデバッグ・バージョンのサポート

メモリーの問題をデバッグするために MSVCRTD.DLL (Microsoft C Runtime のデバッグ・バージョン) とリンクするアプリケーションは、oraocci10d.lib および oraocci10d.dll とリンクさせる必要があります。これらのファイルは、Microsoft Visual C++ 6.0 で使用するためのものです。インストールされる場所は、`%ORACLE_HOME%\oci\lib\msvc\vc6` です。

4.1.2 Microsoft Visual C++ 7.0 .NET 2002 のサポート

Microsoft Visual C++ 7.0 .NET 2002 で開発されたアプリケーションでは、oraocci10.lib および oraocci10.dll を使用する必要があります。現在の OCCI DLL は、Microsoft Visual C++ 6.0 で作成されているので、Microsoft Visual C++ 7.0 .NET 2002 でコンパイルされたアプリケーションでは使用できません。この OCCI ライブラリは、Microsoft CRT (MSVCR70.DLL) の非デバッグ・バージョンとリンクします。インストールされる場所は、`%ORACLE_HOME%\oci\lib\msvc\vc7` です。

4.1.3 Microsoft Visual C++ 7.0 .NET 2002 のデバッグ・バージョンのサポート

メモリーの問題をデバッグするために Microsoft Visual C++ 7.0 .NET 2002 の MSVCR70D.DLL (Microsoft C Runtime のデバッグ・バージョン) とリンクするアプリケーションは、oraocci10d.lib および oraocci10d.dll とリンクさせる必要があります。インストールされる場所は、`%ORACLE_HOME%\oci\lib\msvc\vc7` です。

4.1.4 Microsoft Visual C++ 7.1 .NET 2003 のサポート

Microsoft Visual C++ 7.1 .NET 2003 で開発されたアプリケーションでは、oraocci10.lib および oraocci10.dll を使用する必要があります。現在の OCCI DLL は、Microsoft Visual C++ 6.0 で作成されているので、Microsoft Visual C++ 7.1 .NET 2003 でコンパイルされたアプリケーションでは使用できません。この OCCI ライブラリは、Microsoft CRT (MSVCR71.DLL) の非デバッグ・バージョンとリンクします。インストールされる場所は、`%ORACLE_HOME%\oci\lib\msvc\vc71` です。

4.1.5 Microsoft Visual C++ 7.1 .NET 2003 のデバッグ・バージョンのサポート

メモリーの問題をデバッグするために Microsoft Visual C++ 7.1 .NET 2003 の MSVCR71D.DLL (Microsoft C Runtime のデバッグ・バージョン) とリンクするアプリケーションは、oraocci10d.lib および oraocci10d.dll とリンクさせる必要があります。インストールされる場所は、%ORACLE_HOME%\oci\lib\msvc\vc71 です。

注意： Microsoft Visual C++ 6.0 用の現在の Oracle C++ Call Interface ライブラリは、以前のリリースと同様の場所に存在します。

- oraocci10.lib は、%ORACLE_HOME%\oci\lib\msvc にあります。
- oraocci10.dll は、%ORACLE_HOME%\bin にあります。
- この 2 ファイルのコピーは、%ORACLE_HOME%\oci\lib\msvc\vc6 にもインストールされます。

注意： LIB および PATH 環境変数は、使用している Visual C++ コンパイラのバージョンに対応するよう設定してください。たとえば、Visual C++ 7.0 を使用している場合、%ORACLE_HOME%\oci\lib\msvc\vc7 ディレクトリを LIB および PATH 変数に追加します。環境変数は、Windows のコントロールパネルから、または SET コマンドを使用して設定できます。

5 別にインストールする必要があるコンポーネント

一部のコンポーネントは、Oracle Database ソフトウェアと一緒にインストールされなくなりました。インストールの変更内容については、『Oracle Database インストール・ガイド』を参照してください。

関連資料： 『Oracle Database インストール・ガイド』の「その他のソフトウェアのインストール」

そのリストの他に、Oracle Database 10g リリース 1 (10.1) には Oracle Internet Directory Client ツールが含まれていますが、Oracle Internet Directory Server コンポーネントは含まれていません。Oracle Internet Directory Server コンポーネントは、Oracle Application Server 10g に含まれています。Oracle Internet Directory Client ツールが Oracle Database コンポーネント用に必要な場合、Oracle Application Server 10g から実行する必要があります。

Oracle Internet Directory Client ツールには、LDAP コマンドライン・ツール、Oracle Internet Directory SDK および Oracle Directory Manager があります。Oracle Internet Directory Server コンポーネントには、ディレクトリ・サーバー、ディレクトリ・レプリケーション・サーバー、ディレクトリ統合サーバー、およびこれらを起動および停止する様々なツールがあります。

6 サポートされていないコンポーネント

次のコンポーネントは、このリリースではサポートされていません。

- INTYPE File Assistant (IFA)
- Pro*COBOL 1.8.77
- Oracle Names
- Oracle Trace

7 公開されている不具合および既知の問題

この項では、Oracle Database for Windows の不具合および既知の問題について説明します。

- [Service Pack 4 を適用した Windows 2000 でのインストール](#)
- [ユーザー・スレッド](#)
- [README テキスト・ファイル](#)
- [Oracle Net Configuration Assistant および Active Directory](#)
- [Oracle Net Manager および Active Directory](#)
- [Oracle Change Management Pack でのクイック・ツアーの使用不可](#)
- [韓国語で期間 SQL の実行計画を表示する際のエラー](#)
- [.NET リモート・オブジェクトでの NTS 認証の失敗](#)

7.1 Service Pack 4 を適用した Windows 2000 でのインストール

Oracle Universal Installer は、Service Pack 4 を適用した Windows 2000 では表示された後に見えなくなる場合があります。これは基礎をなす JRE の不具合が原因です。インストールした製品に応じて、3 つの回避策があります。

Enterprise Manager Grid Control をインストールした場合、次を実行します。

```
install¥setup.exe -J-Dsun.java2d.noddraw=true
```

Oracle Database をインストールした場合、次を実行します。

```
install¥setup.exe -J-Dsun.java2d.noddraw=true
```

Cluster Ready Services をインストールした場合、次を実行します。

```
install¥setup.exe -J-Dsun.java2d.noddraw=true  
-Doracle.installer.formCluster=true
```

7.2 ユーザー・スレッド

『Oracle Database プラットフォーム・ガイド』では、Oracle Database for Windows の新機能、ユーザー・スレッドについて説明しています。この新機能は 64 ビット・バージョンの Oracle Database で使用可能です。64 ビット・バージョンについては、今後リリースする予定です。現在の 32 ビット・バージョンの Oracle Database for Windows では使用できません。

7.3 README テキスト・ファイル

一部の README テキスト・ファイルには、UNIX の改行が含まれています。ファイルをダブルクリックすれば、デフォルトではメモ帳でファイルが開きますが、メモ帳は UNIX の改行を認識しません。かわりに、write.exe または edit.com を使用してください。

7.4 Oracle Net Configuration Assistant および Active Directory

Oracle Net Configuration Assistant を使用して Active Directory でのディレクトリ・アクセス構成を完了させ、Active Directory サーバーにすでに Oracle コンテキストがある場合、次のデフォルト以外のラジオ・ボタンを選択してください。

- 使用するディレクトリ・サーバーを選択し、ディレクトリ・サーバーに Oracle を使用する構成をしてください。(必要に応じて、Oracle スキーマと Oracle コンテキストを作成またはアップグレードします。)

Oracle Net Configuration Assistant により、Oracle コンテキストが存在しないことが報告されます。これを無視し、Oracle コンテキストの作成を選択します。ディレクトリ・アクセス構成は、既存の Oracle コンテキストの再作成を試行しなくても完了します。

7.5 Oracle Net Manager および Active Directory

このリリースからネット・サービス名を作成および管理するのに Oracle Net Manager を Active Directory とともに使用する場合、不完全なネット・サービス名が作成されます。Oracle Net Manager を Active Directory と一緒に使用しないようにしてください。

以前のリリースの Oracle からすでに Active Directory を使用している場合は、Oracle Database 10g データベース用の Active Directory でのネット・サービス名の作成に、そのリリースの Oracle Net Manager を続けて使用することができます。

7.6 Oracle Change Management Pack でのクイック・ツアーの使用不可

クイック・ツアーは、Oracle Change Management Pack では使用できません。実行しようとすると、エラーが発生します。

7.7 韓国語で期間 SQL の実行計画を表示する際のエラー

韓国語で期間 SQL の実行計画を表示すると、内部サーバー・エラーの原因になります。この問題は韓国語のみに発生するもので、日本語や中国語では再現されません。現在可能な唯一の回避策は、このページを表示する必要がある場合は、製品を韓国語以外の言語で実行することです。

7.8 .NET リモート・オブジェクトでの NTS 認証の失敗

ユーザー資格証明を暗号化する .NET リモート・オブジェクトとして Oracle クライアントで NTS 認証を使用する場合、NTS 認証が「ORA-12638: 資格証明の取出しに失敗しました。」というエラーで失敗します。これは、.NET リモート・オブジェクト内部の NTS アダプタの Windows API の AcquireCredentialsHandle() の障害が原因で発生します。

8 ドキュメントの訂正および追加

この項の内容は、次のとおりです。

- [グローバリゼーション・サポート](#)
- [グリッド機能](#)
- [Oracle Text での全テキスト検索](#)
- [ビューの説明](#)
- [Management Service プロセスの構成](#)
- [単一言語ソート](#)
- [Windows Terminal Services および Remote Desktop Connection のサポート](#)

8.1 グローバリゼーション・サポート

『Oracle Database プラットフォーム共通日本語 README』の「Oracle Database 10g での Oracle9i Database 言語定義ファイルと地域定義ファイルの使用」の項にある、ORA_NLS10 環境変数に関する指示は間違っています。%ORACLE_HOME%\nls\data\old ディレクトリには、データベース・ロケール定義ファイルの完全なセットではなく、Oracle Database 10g リリース 1 (10.1) で変更された定義ファイルが含まれているためです。Oracle9i の定義に戻すには、最初に %ORACLE_HOME%\nls\data の内容を新規ディレクトリ (たとえば、%ORACLE_HOME%\nls\data\9i) にコピーする必要があります。次に、このディレクトリに %ORACLE_HOME%\nls\data\old から内容を移入します。これで ORA_NLS10 変数を、この新規ディレクトリを指すよう設定できます。

Oracle9i から Oracle Database 10g への言語および地域定義ファイルの変更の詳細は、『Oracle Database グローバリゼーション・サポート・ガイド』および README を参照してください。

8.2 グリッド機能

Oracle Database 10g リリース 1 (10.1) の『Oracle Database 新機能』には、Oracle Database 10g の最初のリリースでは使用できないレジナンスおよび透過的セッション移行の 2 つのグリッド機能がリストされています。これらの機能は、次のリリースで使用可能になります。

8.3 Oracle Text での全テキスト検索

Oracle Text で全テキスト検索をする場合、XML 表を手動で作成する必要があります。

XML 要素の集合に対するテキストベースの ora:contains 検索に Oracle Text 索引を使用する必要がある場合、XML スキーマの注釈 storeVarrayAsTable="true" は使用しないでください。この注釈は、要素の集合が索引構成表 (IOT) の行として残る原因となります。Oracle Text では IOT はサポートされません。

Oracle Text を使用して要素の集合の内容を検索できるようにするには、スキーマの登録中に genTables="false" パラメータを設定します。次に、ORGANIZATION INDEX OVERFLOW 句を使用せずに必要な表を手動で作成します。これにより、例 1 で示すように、表が索引構成表 (IOT) のかわりにヒープ構成されます。

例 1 XML スキーマ準拠のヒープ構成表を手動で作成

```
CREATE TABLE PurchaseOrder OF XMLTYPE
XMLSCHEMA http://localhost:8080/home/SCOTT/poSource/xsd/purchaseOrder.xsd
ELEMENT "PurchaseOrder"
VARRAY "XMLDATA"."ACTIONS"."ACTION"
STORE AS TABLE ACTION_TABLE ((PRIMARY KEY
(NESTED_TABLE_ID, ARRAY_INDEX)))
VARRAY "XMLDATA"."LINEITEMS"."LINEITEM"
STORE AS TABLE LINEITEM_TABLE ((PRIMARY KEY
(NESTED_TABLE_ID, ARRAY_INDEX)));
```

8.4 ビューの説明

『Oracle Database パフォーマンス・チューニング・ガイド』の第 10 章「パフォーマンス・ビューを使用したインスタンス・チューニング」には、2 つの正しくないビューの説明があります。ビュー名と適切な説明は、次のとおりです。

- V\$EVENT_HISTOGRAM

V\$EVENT_HISTOGRAM ビューには、イベント・ベースの待機数、最大待機数および合計待機時間のヒストグラムが表示されます。

- V\$SYSTEM_WAIT_CLASS

V\$SYSTEM_WAIT_CLASS ビューには、インスタンス全体での待機数に対する合計時間および待機イベントの各クラスでかかった時間が表示されます。(この説明により、オブジェクト数への参照が削除されます。)

8.5 Management Service プロセスの構成

『Oracle 高可用性アーキテクチャおよびベスト・プラクティス』の第8章「監視および検出に Enterprise Manager を使用」の2つ以上のサービス・プロセスの構成およびそれらのロード・バランスに関する項の記述は、正しくは次のようになります。

中間層の場合、基本的には、最小限の2つの Management Service プロセスを用意し、ハードウェア・サーバー・ロード・バランスを使用して個別の Management Service プロセスの場所と個別のコンポーネントの障害を隠すことをお勧めします。これにより、Enterprise Manager アーキテクチャ内の最も重大なコンポーネントの障害を即座に防ぎ、Enterprise Manager を使用して監視しているすべてのシステムのサービスはほとんど中断することはありません。Management Service プロセスは、Oracle Net を使用してリポジトリ・インスタンスに接続します。

8.6 単一言語ソート

『Oracle Database グローバリゼーション・サポート・ガイド』の第5章「言語ソートおよび文字列検索」の単一言語ソートに関する項は、正しくは次の記述で終わります。

単一言語ソートは、Unicode 以外のマルチバイト・データベース・キャラクタ・セットでは使用できません。データベース・キャラクタ・セットが Unicode 以外のマルチバイトのときに単一言語ソートが指定された場合、デフォルトのソート順はデータベース・キャラクタ・セットのバイナリ・ソート順になります。UNICODE_BINARY が唯一の例外です。このソートは、すべてのキャラクタ・セットに使用できます。

8.7 Windows Terminal Services および Remote Desktop Connection のサポート

Oracle では、Windows Terminal Services (Windows XP では Remote Desktop Connection と呼ばれる) のインストールおよびランタイムをサポートしています。次のマニュアルに記載されているこのサポートに関する制限は無視してください。

- 『Oracle Database インストレーション・ガイド』
- 『Oracle Database Client インストレーション・ガイド』
- 『Oracle Database Companion CD インストレーション・ガイド』
- 『Oracle Real Application Clusters インストレーションおよび構成』

